

インターンシップの取り組み事例

北陸職業能力開発大学校附属新潟職業能力開発短期大学校 今井 誠

1. はじめに

最近では、学校等の教育訓練現場においてインターンシップという言葉が定着してきている。

1997年に当時の文部・通産・労働の3省によって「インターンシップ推進上の基本的考え方」が示され、大学などを中心としたインターンシップや小・中学校での総合学習などを活用した職業意識高揚の策が進められてきた。

その中で、2003年から厚生労働省所管の職業能力開発大学校においてもインターンシップを取り入れた教育訓練が導入されてきた。

本稿では、新潟職業能力開発短期大学校（以下、「当短大校」という）においても平成15年度からインターンシップを取り入れているので、その事例を紹介する。

2. インターンシップの目的

学生に生産現場を直接体験する機会を与えることにより、企業等における最新の知識、技能・技術の動向を把握させるとともに、学生の高い職業観を養うことを目的としている。

具体的には、次の点にある。

- ① 学生が習得した知識、技能・技術を生産現場において総合的に活用することにより、日ごろの教育訓練の内容を再確認する。
- ② 企業が求める人材要件を確認し、必要となる能

力の習得意欲を喚起する。

- ③ 就職活動への理解を進め、就職活動等適正な職業選択の参考とする。

3. インターンシップの実施状況

当短大校において、インターンシップを導入したころは受け入れ先企業の開拓から学生の要望等、双方のマッチングを図ることに苦慮し、派遣先企業の受け入れ時期を優先に実施していたが、現在ではこれまでの経験を生かし、授業科目の中に取り入れて計画的に実施している。

以下に、これまでのインターンシップの実施状況を表1に示す。

表1 インターンシップの実施状況

年 度	15	16	17	18	19
派遣先企業数	40	32	45	45	31
派遣学生数	79	81	79	79	64

4. インターンシップの派遣時期・期間

今までインターンシップの実施は、主に2年生を対象に実施してきたところであるが、現在では1年生にも早いうちに職業意識を喚起させるためにその機会が得られるように年間の訓練計画の中に取り入れることとした。

具体的には、2年生は夏休み前の2週間、1年生

は春休みの期間中に、全科一斉に実施することとした。このことにより、外部講師および授業科目への影響を極力抑えることができるようになった。

さらに、履修科目単位表の中に企業実習（4単位）を設けて明確にし、学生への意識付けを促すこととした。

なお、学生の病気や派遣先企業の諸事情等によりインターンシップが実施できない場合は、施設内で実施し、実習日誌を作成させることとしている。

インターンシップの派遣期間は、原則として2週間（10日間）であるが、受け入れ側企業と相談の上、派遣期間を決めている。昨年度までの実施状況を見ると、受け入れ側企業の都合上5日間程度が多いようである。

5. 具体的なインターンシップ実施の流れ

当短大校のインターンシップ実施の基本的な流れを図1に示す。

5.1 派遣先企業リストの作成

派遣先企業の開拓は、就職先企業と求人企業にインターンシップの依頼を行うと同時に個別に企業訪問し、新規の派遣先企業開拓を行っている。

派遣先企業の選定に当たっては、当短大校の立地条件等を勘案したうえで、学生が通える範囲等を考慮し、選定している。

また、就職先が主に製造業・建設業であることを考慮し、受け入れ企業の開拓と選定を進めてきたが、当地域では製造業がそれほど多いとはいえ、場合によっては管理・事務的な要素も含めて派遣先企業リストを作成している。

5.2 派遣先企業の選定（マッチング）

学生と企業のマッチングは、派遣先企業リストをもとに各科で紹介し、次のことを考慮しながら学生に派遣先企業を選定させている。

- ① 通勤時間
- ② 企業（職種）の選定
- ③ 自分の就きたい仕事

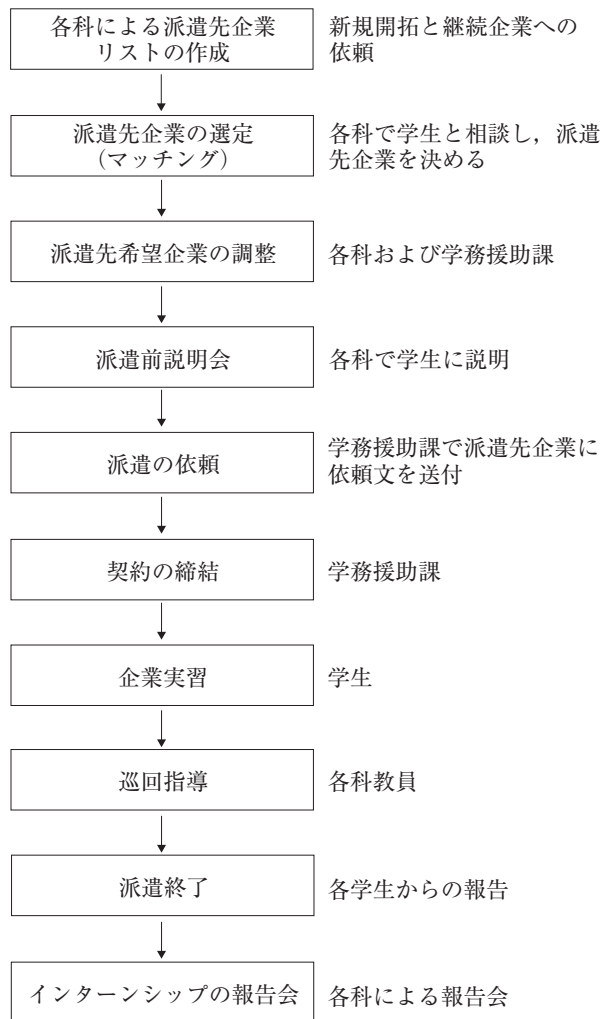


図1 インターンシップ実施の基本的な流れ

派遣先企業について詳細に知りたいときは、ホームページ等を利用して学生に調査させている。

5.3 派遣先希望企業の調整

派遣先企業の選定後は、他科の学生が同一の企業をお互いに希望していないかなど、学生の人数調整と派遣日、派遣期間の確認を行っている。

5.4 派遣前説明会

学生の派遣に当たっては、主に次のことを各科の担任より派遣前に指導している。

- ① インターンシップの目的や心得
- ② 実習日誌の記載方法
- ③ 報告書の作成方法
- ④ 安全作業，交通安全，健康管理等



図2 作業風景(ワイヤカット放電加工機の操作)
(三菱マテリアルPMG(株))



図3 作業風景(紙の裁断作業)
(島津印刷(株))

5.5 企業実習

企業実習期間中は、各科の教員全員はインターンシップ派遣先へ巡回指導を行い、学生の仕事ぶりや健康状態、悩み事などないか状況把握を行っている。

また、定期的に学生から担当の教員に電話等により連絡を入れるようにしている。

6. 派遣終了

派遣終了後は、できるだけ速やかにインターンシップの終了手続きを行う必要がある。

学生からは、インターンシップ報告書と発表会の資料、感想文を速やかに提出させており、派遣先企業からは、実習報告書と出席管理簿、評価表、委託費用の請求・振込先をお願いしている。

6.1 報告会

各科で報告会を設定し、1・2生全員が聴講し、

インターンシップの成果について、派遣先企業ごとにその体験談を報告している。

短期間ではあるが、学生が現場体験を通じて得た感想を次に示す。

- (1) インターンシップは、就職を希望する職種を体験できて、本当に将来就こうとしている職種に合っているかを確認することができる機会となり、大変有意義なものとなった。



図4 報告会(生産技術科)



図5 報告会(制御技術科)

- (2) 企業の現場で普段の学校生活では得がたい貴重な実務経験や仕事に対する意義を学ぶことができた。
- (3) インターンシップを通じて、社会では自分から仕事を見つけて積極的に行動しなくてはならないということ。

自分から積極的に働くには、次にどのような仕事があって、それにはどのような道具が必要かを理解していなければならないので、慣れるまで苦労したが、わからないことを聞いたり調べたりすることが非常に重要であると思った。

6.2 企業からの声

また、企業から見たインターンシップの声は、次

のような事項があげられる。

(1) 就学中に企業で実習を受けることにより、今まで学校で学んだことやこれから社会で学ぶことが理解されたことがとても有意義であり、企業側にとっても実習を受け入れたことにより実習担当者の良い勉強になった。

また、企業も学校とつながりを持つことにより、従業員教育にも生かせると考えている。

(2) インターン生の日々の取り組みはきわめて真面目であり、一から学ぼうとする姿勢は、われわれ(社員)にとっても原点に戻れることを認識させる意味で有意義であったと考えている。

(3) 言葉遣いも良く、質問に対する回答は明確であった。

業務の説明に対する理解度ならびに作業の完成度が高く、単調な作業に根気強く取り組んでいた。

身なり・服装は清潔で好感が持てた。

忙しい時期の戦力となっただき有難うございました。

昨年と同じ感想ですが、短大の学生は即戦力となる実力は十分にあると思う。

7. 実施における課題

インターンシップを実施するうえでいくつかの課題が生じてくるが、ここでは、その主なものを次にあげてみる。

(1) 実施時期について

実施時期について、現在夏休み前と春休みとしているが、派遣先企業の受け入れ時期を考慮すると冬休み前にも実施できるように訓練計画に盛り込むことも必要である。

(2) 企業実習に行かれない学生への対応

学生または派遣先企業の諸事情等により企業実習に行かれない学生には、1～2週間で完結する実習課題を別途与える必要がある。

(3) その他

派遣先企業にお願いしている提出書類について、他の学校でも実施しているインターンシップに比べて書類が多いとの意見をいただいているので、その意見を踏まえて改善できる箇所は見直していくことも必要である。

今後は、これらのことを踏まえて改善を行い、派遣先企業が快くインターンシップを受け入れていただくようにしていかなければならないと考えている。

8. おわりに

インターンシップを実施して、学生は就職先企業を確認することができたこと、実務経験や仕事に対する意義を学ぶことができたこと、自ら聞いたり調べたりすることが重要であること、など学校では得難い貴重な経験ができたことを感想として述べており、インターンシップは学生にとって非常に有意義なものと感じている。

また、派遣先企業からは、学生を受け入れたことにより勉強になったこと、一から学ぼうとする姿勢は企業において原点に戻れることを再認識する意味で有意義であったこと、短大の学生は即戦力となる実力が十分あること、など貴重な声をいただき、学生には在学中にぜひとも全員インターンシップを経験させたいと考えている。